

●「夏ではないから大丈夫」 それは間違い！



◆春・秋のように気温が23℃～24℃でも
一時間後には43℃に上昇する
というテスト結果もあります。

◆逆に冬は温度の低下による低体温の
リスクがあります。
暖房をつけていても、積雪時には
排気ガスによる一酸化炭素中毒の
恐れもあるため非常に危険です。



●車内放置がなぜ虐待？

虐待は「児童虐待の防止等に関する法律」（平成12年法律第82号）で、

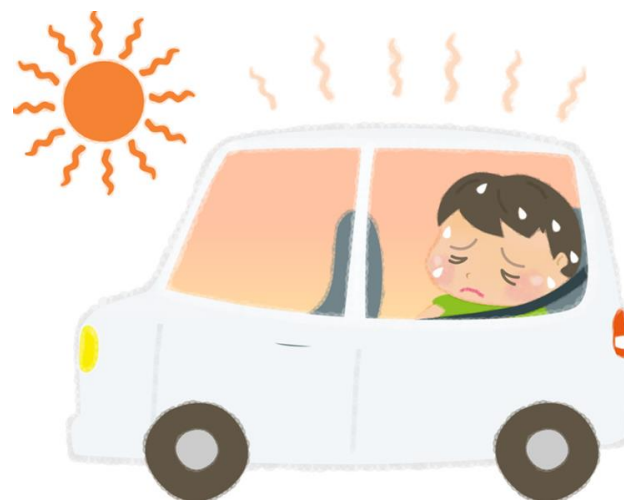
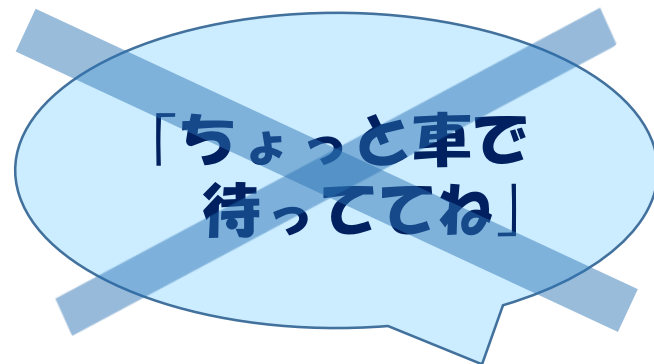
「この法律において『児童虐待』とは保護者（親権を行う者、未成年後見人その他の者で、児童を現に監護するものをいう。以下同じ。）がその監護する児童（18歳に満たない者をいう。以下同じ。）について行う次に掲げる行為をいう」（第2条）と定義され、その行為として

「児童の心身の正常な発達を妨げるような著しい減食
又は長時間の放置（中略）その他の
保護者としての監護を著しく
怠ること」（第3項）があげられています。

児童を車内だけでなく、自宅などに放置することも、「児童虐待」にあたります。



神奈川県平塚児童相談所
平塚市中原3-1-6
電話 0463-73-6888
月～金 8:30～17:15
※土・日・祝日は閉庁です。



子どもの車内放置は 虐待です。

神奈川県児童相談所

●短時間なら、子どもを車内に残しても大丈夫？

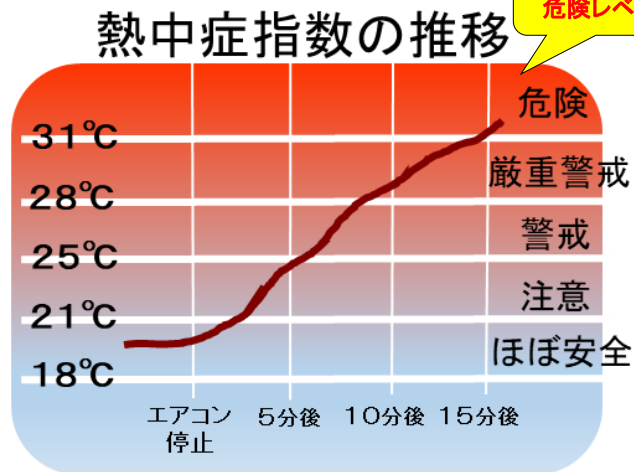


◆「寝ているから」「エアコンをつけているから」と、子どもを車内に残したまま車から離れることは、短時間であっても**大変危険な行為です。**

◆特に真夏の日中は、エンジンを停止させ5分経過した時点で車内温度は約5℃上昇。

15分後には熱中症指数が、危険レベルにまで達し、車内の温度が50℃を超えることもあります。

◆特に乳幼児は体温調整の機能が未発達のため、高温下では短時間で体温が上昇し、死に至ることがあります。



8月の晴天で外気温35℃、昼12時から計測。

- 窓を閉め切った車両：ミニバン黒
エンジンを停止30分後には約45℃となり、その後、車内最高温度は57℃まで上昇。
- 窓を3cm程度開けた状態：ミニバン白
エンジンを停止30分後には約40℃となり、その後、車内の最高温度は45℃まで上昇。

窓を少し開けていても車内は厳しい温度。



●他にもキケンがいっぱい！

- ✖子どもが目を覚ましたときに保護者がおらず、パニックになり車内で暴れてケガ。
- ✖車内でひとりになった子どもがスイッチ等を触り、サイドブレーキの解除など誤作動の危険性。
- ✖置き去りにされたトラウマで外出を嫌がるなどの精神的な悪影響。
- ✖車外に出て事故に遭う可能性。
- ✖急な体調の悪化。

✖さらに・・・
連れ去り目的の犯罪者にとっては「お父さん、お母さんを一緒に捜してあげる」など、子どもに簡単に近づくことができ、犯罪に巻き込まれる可能性も！

